

建設業の未来を担う情報共有システム

株式会社アイサス 中・四国支店

営業部 正保 貴裕



株式会社 アイサス

もくじ

1. 情報共有システムの経緯
2. 情報共有システムの概要やメリット
3. 情報共有システムは必須のツールになっている
4. まとめ

1. 情報共有システムの経緯

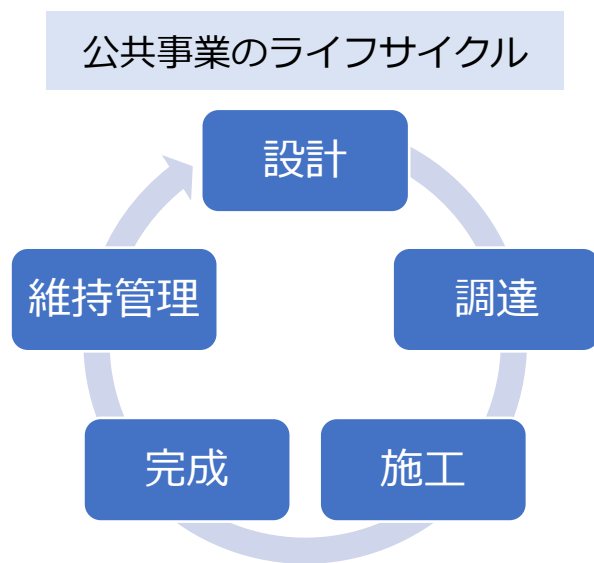
【ご質問】

情報共有システム(ASP)をご存知ですか？

1. 情報共有システムの経緯

CALS/EC = 公共事業支援統合情報システム

従来は紙でやり取りされていた図面や書類などの情報を**電子化**し、**ネットワーク**を利用することで、関係者間での**情報の共有**を効率的に行い「**生産性の向上**や**コスト縮減**」等を図る取り組み



【3つの要素】

- ・ 情報の電子化
- ・ ネットワークの利用
- ・ 情報の共有化

1. 情報共有システムの経緯

2015年	国土交通省の工事で利用が義務化
2018年	国土交通省の業務で利用が開始
2019年	農林水産省の工事で利用が義務化
2020年	農林水産省の業務で利用が開始
2021年	国土交通省の営繕工事で利用が義務化 防衛省の工事で利用が義務化
2008年	岡山県の工事で利用が開始
2020年	岡山県の業務で利用が可能となる（臨時措置）
2021年現在	46/47都道府県が導入済み（弊社調べ） ※ASP方式・発注者サーバ方式を含む



2. 情報共有システムの概要やメリット

- ◆利用環境 インターネット環境に繋がる端末からいつでもどこからでも利用可能
- ◆利用期間 工事の施工期間中
- ◆導入費用 利用する期間の料金のみ
構築やメンテナンス等にかかるコストや費用は不要
- ◆利用時 主に書類の発議や決裁
その他あらゆる情報（データ）の共有が可能
- ◆電子納品 岡山県の情報共有システムでは面倒な整理作業が不要

2. 情報共有システムの概要やメリット

- ◆移動にかかるコストや時間の大幅な削減
- ◆メールでは送れない大容量データの授受が可能
- ◆書類の散逸や紛失の防止
- ◆現場監督業務の拡充



現場の生産性向上や業務の効率化に繋がる

2. 情報共有システムの概要やメリット



①システムで
簡単に発議

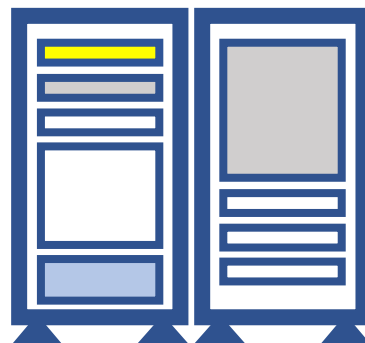


※イメージです

②発議した時点で
全員で共有



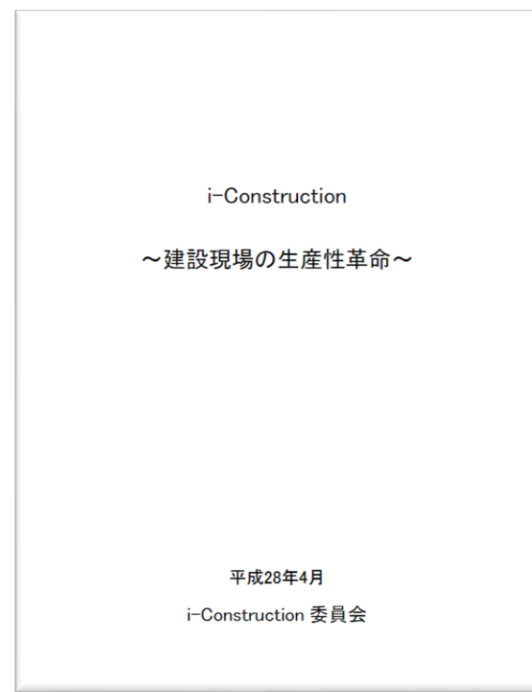
③スムーズな
決裁を実現



3. 情報共有システムは必須のツールになっている

i-Construction の目指すべきもの

1. **建設現場の生産性の向上**
2. より創造的な業務への転換
3. 賃金水準の向上
4. **十分な休暇の取得**
5. **安全性の向上**
6. 多様な人材の活躍
7. 地方創生への貢献
8. **希望が持てる新たな建設現場の実現**
9. 広報戦略

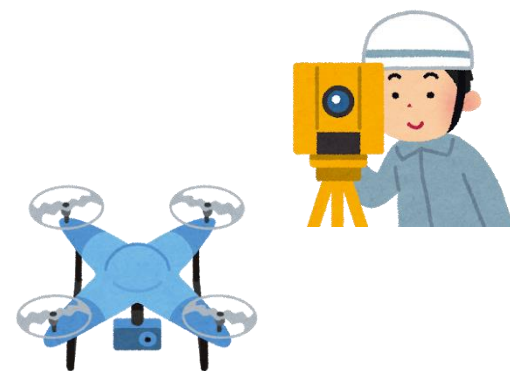


国土交通省 i-Construction 委員会 『i-Construction ~建設現場の生産性革命~ (平成28年4月)』 (2021年5月13日確認)
「7. i-Construction の目指すべきもの」より項目名を抜粋。赤字部分はアイサスによる協調。

3. 情報共有システムは必須のツールになっている

やり取りするデータ容量はどんどん大きくなる

- ◆ICT活用工事
 - ・ 3次元の測量データ
- ◆オンライン電子納品
 - ・ 今までCDやDVDで納品していたデータ
- ◆遠隔臨場
 - ・ 段階確認等の動画データ



4. まとめ

書類の発議や決裁をするだけのシステムではなく、
様々な情報やデータをやり取りするための**必須のツール**となっている

◆オンライン電子納品

工事書類簡素化の方針から、工事写真は電子納品の対象外とします。また、電子成果品として納品する工事完成図の基となる CAD データ、施設基本データなどの台帳データ、地質データ等を登録し、**情報共有システムの【オンライン電子納品機能】**を利用し、納品作業を行ってください。

国土交通省 『土木工事等の情報共有システム活用ガイドライン（令和3年3月）』（2021年5月13日確認）
「6.3 電子成果品の作成」より引用。赤文字下線部分はアイサスによる協調。

◆遠隔臨場

受注者は、遠隔臨場の映像と音声の配信を行う。確認実施者が現場技術員の場合は、現場技術員が使用する PC にて遠隔臨場の実施状況を画面キャプチャ等で記録し、**情報共有システム (ASP) 等**に登録して保管する。

国土交通省 大臣官房技術調査課 『建設現場の遠隔臨場に関する監督・検査試行要領（案）（令和3年3月）』（2021年5月13日確認）
「2. 適用の範囲」より引用。赤文字下線部分はアイサスによる協調。

4. まとめ

ここからは実際のシステム画面でご説明します